

「隠岐世界ジオパークに関する研究大賞」の審査結果について

3月20日(金)に隠岐合同庁舎で「隠岐世界ジオパークに関する研究大賞」の最終審査を行いました。島外から3名の発表者が来島し、公開プレゼンテーションを行いました。ジオパーク推進協議会会長の隠岐の島町長を始め、同協議会の幹事長、副幹事長、事務局長、調査研究部会の部長の5名で審査しました。

大賞は、阿部志朗氏(浜田市在住)の「隠岐の屋根瓦景観について～隠岐の自然環境・社会環境と『石州瓦』との関連性を中心に～」に決定しました。内容は島前・島後で見られる石州瓦が、いつどこからやってきたのかを瓦の様式から分かる新旧と産地から考察したものです。隠岐の瓦屋根については、ツアーガイド中によく参加者から質問される内容で、ガイドにも有益で、また新知見となり、高く評価されました。

その他、木幡育夫氏(松江市在住)の「隠岐世界ジオパークの観光振興に関する一考察―布施の山祭りを考える―」、高木知巳氏(香川県在住)の「ジオパークの投資対効果」についても、隠岐世界ジオパークの発展に欠かせない提案となっており、今後大いに活用して行きたいと思えます。

なお、論文募集については来年度以降も続けていきます。今回の論文について、推進協議会のホームページに掲載しておりますのでご覧下さい。

<http://www.oki-geopark.jp/>



発表の様子

カタクリ観察会

3月25日、島後の大津久でカタクリ観察会を行いました。区長の梶田豪介さんは、木の伐採や山の手入れをしてカタクリの生育しやすい環境作りに努めています。今回は、都万中学校の一、二年生と教員、ニュースで知った方々が梶田さんの説明を聞き、カタクリの観察をしながら草抜きを手伝いました。その後、協議会研究員の平田がジオパーク講座をしながら、山中を歩いてまわりました。寿命が四〇年から五〇年あることや、山奥にあるはずが隠岐では海岸の見える場所で見られるので珍しいという話などに参加者は興味深く耳を傾けました。



レンジャー通信

自然と人の営みの調和を目指して～国立公園のビジョンを策定しました～

環境省では、指定50年を迎えた隠岐の国立公園について、国立公園の果たすべき役割や、将来あるべき姿を明確にするため、3年にわたって地域の住民の方々との意見交換などをおこない「大山隠岐国立公園隠岐島地域ビジョン」をとりまとめました。ご意見をいただいた皆さま、本当にありがとうございました。ビジョンでは、隠岐の美しい海岸や山岳風景だけでなく、そこに暮らす生き物や人々の営みを、「知り」「守り」「活かし」ながら、後世に伝えていくことを目指しています。この目標達成に向けて、皆さまとともに、よりよい隠岐を創っていきたいと思えます。ビジョンは、隠岐自然保護官事務所で配付しているほか、以下のホームページからもご覧になれます。

http://chushikoku.env.go.jp/pre_2015/post_3.html



天平の息吹を今に伝える

隠岐国分寺蓮華会舞

隠岐の島町

蓮華会舞は、隠岐の島町池田の隠岐国分寺に伝わるもので、毎年4月21日に公開されます。

奈良〜平安時代にかけて、日本には中国・朝鮮・インド等から多くの舞楽が伝来し、宮廷を経て日本各地に広がりました。この蓮華会舞も、その流れを汲むものと考えられますが、「麦焼き」や「眠り仏」など、長い年月の間離島の風土に育まれ、独自のかたちを持つようになった演目も見られます。

平成19年の火災により焼失した本堂も再建が進められ、昨年9月に完成しました。今年は、新しくなった本堂の前で、天平文化を今に伝える七つの舞が優雅に舞われます。

(国指定重要無形民俗文化財)



日時: 4月21日(火)午後1時頃〜
場所: 隠岐国分寺境内
■お問い合わせ先:
隠岐の島町教育委員会(電話2-2126)

岩がきのシーズン

マルチワーカーの目から

海士町

3月に入って梅の花が咲き、うぐいすの声を耳にするようになるなど、少しずつ春の訪れを感じています。しかし僕自身、なにより海士の春を感じるのは、「岩がき」のシーズンが始まったことです。

岩がきは、波の揺れ、潮の流れの影響で、殻がひとつひとつ違う形をしています。波の揺れや潮の流れは、地形の成り立ちと大きく関係があり、生産者が自然を学び活かすことで、素晴らしい岩がきが育ちます。岩がきを食べる際は、殻の形がひとつひとつ違うこと、食べられる大きさになるまでの海の中のこと、更に生産者が手間をかけて育てていることに思いを馳せると、さらに美味しく感じられるかもしれません。



春の夜の妖怪たち 西ノ島町

春の夜、茂みや森の闇から「ヒーン」、フーン」という甲高い寂しげな声を聞いたことはありませんか？実はこれはトラツグミという鳥の声です。その不気味さから昔は妖怪「ぬえ」の声とされ恐れられていたそうです。

春になると夜行動する鳥も活発になってきます。隠岐では4月中旬頃の夜半、ミゾゴイというサギの仲間の声も聞こえてきます。「ボウ、ボウ」とこちらも不気味な声です。でも、彼らにとっては繁殖のためのラブソングなのです。そう思うと少し親しみが湧いてきます。

夜に行動する鳥は人目につきにくいので、人知れず姿を消していつているものも少なくありません。春の夜の彼らの声に少し耳を傾けてみませんか？

トラツグミ



ミゾゴイ

小中学校からの招待給食

知夫村

3月11日(水)に知夫小中学校において「招待給食」がありました。これは、子供たちが日ごろお世話になつていいる地域の方々と一緒に食事をするのと、地域の方々と一緒に楽しくふれあい、よりよい人間関係を目的に実施しているものです。

役場の職員として「総合的な学習の時間」で中学3年生にジオパークの「人との営み」について講義したことから今回招待を受けました。この日の献立は、あらめごはん、ちくわの磯揚げ、ほうれん草のみぞれ和え、豚汁、ミニロールケーキ、牛乳です。学校で給食を食べるのは約20年ぶりで、当時のことを思い出しながらいただきました。

(崎)

招待給食の様子



隠岐世界ジオパーク新聞へのご質問、ご意見、ご要望は下記までお寄せください。



隠岐世界ジオパーク推進協議会事務局

T 685-8601 隠岐郡隠岐の島町港町塩口2 4 番地
(隠岐支庁3階 県民局内)

☎ (08512) 2-9636

FAX (08512) 2-9626

メール info@oki-geopark.jp